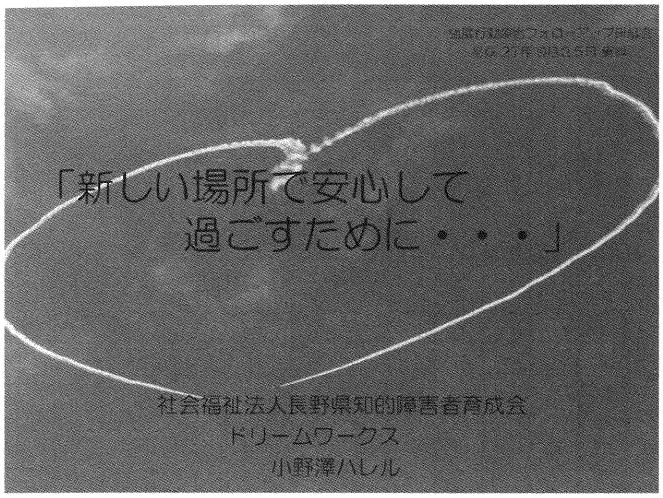


1．ケース概略

①生育歴
氏名　○○　Sさん　男性　平成７年３月２５日（20歳）

平成２５年春、養護学校高等部を卒業し自宅から通所

・療育手帳：Ａ１　・障害支援区分：区分５
・診断：重度知的障害を伴う自閉症
・家族構成：父・母・姉　※別生活　姉（大学生）

自分の周りにおきる出来事の意味が理解できず、
混乱と恐怖を感じ学校生活をおくる。
言葉のみのコミュニケーションは
理解できず苦労し、状況判断で動いている。
初期抵抗がとても強く、激しい自傷がおきてしまう。

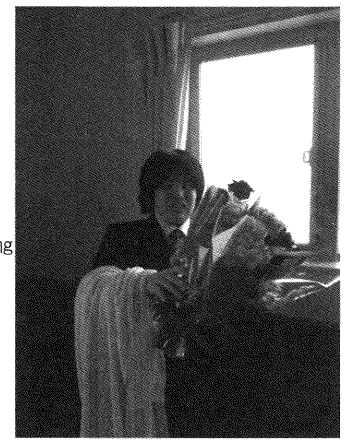
②健康面

・てんかん発作あり
　３歳、１３歳、１５歳

・服薬状況

朝：テグレトール朝200mg
夕：300mg服用

不安定時：エビリファイ



H25.4.1撮影

③支援体制　（生活介護）　計8名

利用者　：１５名～21名（日によって利用者数変動有）
職員体制：管理者兼務1名　生活支援員6名（専従5名　兼務1名）
　　看護師1名

④日　課　*！はじめと終わりを一本締めで知らせる！*

９：００	母の送りで通所
９：２０	**Sさんとスケジュール確認**
９：３０	全体で朝会　♫歌　***一本締め***
１０：００	活動
１２：３０	昼食　手作りお弁当持参
１３：３０	活動
１５：００	お茶
１５：３０	帰りの会　♪歌　***一本締め***
１６：００	お迎え

2．基本的な課題点

１）新しい環境、変化に弱い、初期抵抗が強い
　☛自傷・大声・睡眠障害・常動行動・多飲水等

２）人に対しての恐怖感・不安感が強い・感覚過敏
　☛自傷・大声・常動行動・多飲水等

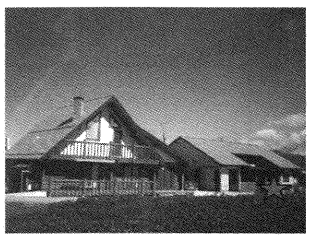
３）コミュニケーション能力が低い
　☛自傷・大声・多飲水等

４）他の人のお弁当を食べたがる
　☛制止による激しい自傷
　　・他害・大声・ 多飲水
　　食べ物に強いこだわりがある

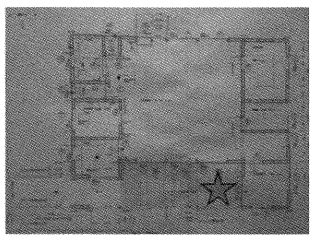
3．支援経過

課題　１・２に対して
①４月、Sさんに自分で居場所を決めてもらった！

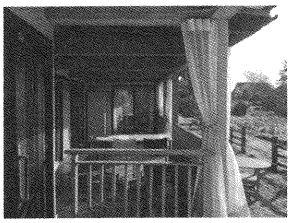
★Sさんが選んだ場所：テラス



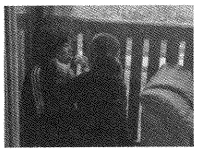
初春のドリームワークス



新　館



自分で選んだテラスの静かな場所にソファー、机、パーテーションなどを置き空間を作る。



②Sさんの得意なこと、苦手なことを観察しスタッフ間で共有した

好きなこと・得意なこと

- パターンに強い
- 視覚的支援で何をどのくらいやるのか見通しを持てる
- ボディーサインができる
- ひもをふり、2時間は待つことができる
- ビーズのれん作りが得意
- アイロンビーズが得意
- モデルの人がいると真似ができそう　他

嫌いなこと・苦手なこと

- 変更が苦手・初めてのことは抵抗がある
- 人の多い空間にはいれない（自分がいて人が増えるのは安心）
- 苦手な音がある（サッシは締めてある状態できこえるくらいの音が心地良い感じ）
- 暑さに弱い・汗かき・体温調整が自分では難しい
- 不機嫌そうな顔の人（ぼく、これでいいのかな・・）　他

氷山モデルで考えた

頭がわれてしまうほどの自傷や他害行動

本人の特性

- 初めてのことや場所に弱い
- 言葉での指示はわからず自傷になる
- うるさいところは苦手・こだわりが強い
- パターンに強い　・睡眠障害がある
- ワークシステムでビーズ通しが得意
- 自傷をコミュニケーションとしやすい
・・・・・・etc

環境・状況の影響

- 学校は卒業して新しい場所にいく
- 安心して過ごせる場所がわからない
- 人が襲ってくるという不安がいっぱい
- 知らない人ばかりで信用できない
- なにをいつまでするんだろう
- だれの話をきけばいいの・・etc

【支援方法】

- スケジュールボード（写真）を使い1日予定を伝える
- 徹底した1人のキーパーソンの声掛け
- スイッチが入りそうなものは視界から外す工夫
- 敬語で常にほめることで成功体験を感じさせる・・・・・・etc.

③Sさんが安心できる声かけの徹底と

Sさんの気持ちを共有する。

例えば・・・

「待ってるよ～」
「だいじょうぶだよ・・・」
「歯磨きの仕上げ磨きさせてくれてありがとう」
「一緒に活動できてうれしかったよ！」
等々

※敬語がかなり有効なことがわかる

④活動について　　4月～6月

午前中ハイキング、午後プールをパターン化した

ポイント（4つの配慮）

1)少人数での活動
2)苦手な利用者と別グループで活動する
3)昼食後に、車にすぐに乗りたがり自傷で訴えたために、車を視界から外す
　☞　時間の経過とともにリズムができパターンになった
4）キーパーソンの声掛けを徹底した

体を使うことで適度な疲労感が良好な睡眠を導くように6月までパターン化した.

○活動について　　7月～3月

ハイキング・プール・回収
　＋　温泉入浴
　＋　ワークシステム　ビーズ

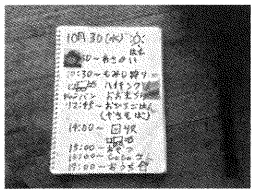
- 冬場の活動を意識しつつ落ち着いている様子がみられたので活動の広がりを求め温泉入浴を試す
- 好きなビーズもやらされ感なく受け入れ取り組む

選択できる活動を増やしたい
☛選択できる喜び
☛認めてもらえる喜び
☛絶対の信頼の確立につながるのではないかと考える

課題 3に対しての支援

Sさんのスケジュールを5月連休明けから導入する

朝会前スタッフと一日のスケジュールを確認



7月頃から自分からスケジュールをもって活動へ出掛けるようになる。

Sさんにとって安心できるツール、助けとなる大切なものへと変化した瞬間なのかもしれない

課題 4　他の人のお弁当を食べたがることへの支援

1．食事の時間をずらす☞　視界にいれない配慮
　☛ 食べたがることが激減した

2．もっと食べたいという気持に寄り添うために
　お替りサインが有効だということを伝える手
　立てに*お替りサインが出たらお替りを用意した*
　- ☛ ポット等のお茶をどうしてものみたがるので視界から外す工夫
　- ☛ 他の人と自分のものを区別できる視覚的支援でトレーを使用
　- ☛ 声かけの工夫
　- ☛ お替りサインを使うことができた

他の利用者と楽しく一緒に食べる風景も見られる。

4．課題であった行動の変化についての考察

①スケジュールの使用
- ☛ 見通しがもて安心　☛自傷・他害の減少

②環境的配慮
- ☛ 安心して周りをみて行動ができている
- ☛ 苦手な音を自分で調整することができる

③トイレ・待って・お替りサインを見逃さない
- ☛ 自傷せずに気持ちを伝えられる
- ☛ 他害・自傷の減少につながった

④スモールステップの活動
- ☛ 成功体験の積み重ねで温泉入浴に成功！

5．まとめ　　6つの視点

1）少人数グループでの活動　☛4人～6人

2）苦手なメンバーとはグループを分けた

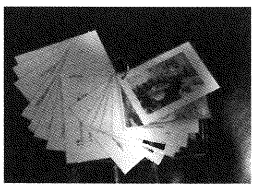
3）常にほかの利用者が本人から見える位置にいたいという気持ちを認めた(車の乗車位置など)

4）キーパーソンの声かけにしぼる

5）圧のかからない優しい声掛けと笑顔で「ドリームはいいところ、安心できる場所である」との印象付をした

6）成功体験を積むことで、自傷をコミュニケーションとしないようにした

Sさんに事例発表のお話と許可をもらう



お母さんからのおはなし

社会に巣立った息子のSは、ドリームさんの魔法!?にかかり、毎日笑顔で通所しています。自閉症のSは偏った認知と音への過敏さのため混乱の中、時に自傷の表現で自分を守り、学校生活を過ごしてきました。

ドリームさんの魔法は本人の困り感に寄り添い、障害ゆえの辛さや許容の狭さに共感し、信頼できるキーパーソンがしっかりでき、その上に、スケジュール予告で一日の見通しをもち、本人の自己決定を大切に仲間の中で成功経験を積むというものでした。

Sに守りに入って生きなくても大丈夫ということを日々感じさせていただき、本人のピリピリ感がなくなり、笑顔が増え、親バカですが、本人の素直さも戻り、折り合いもよくつくようになりました。何より、自傷のない日々が幸せです。

本人を中心においた支援や手だてのおかげと感謝しています。

(H25.10月)

6．最後に・・

～Sさんの一本締め～

- アセスメントをしっかりとる
- チームとしてかかわる
- 家庭との情報交換を密にする
- 障害の特性をスタッフが学ぶ
- 実践し失敗から学び次の道へとつなぐ
- 笑顔で支援をする
- この笑顔を守ることこそが、私たちの仕事だと思っている
  ⇦決してブレナイ想い

現在のSさんを取り巻く状況

1. 姉が拒食症を発症し、自宅に戻り療養生活を送っている。（H26,春より）
2. ショートスティを週1回利用している

   【おやつ➡ごはん➡寝る➡ドリーム】
3. 16:30までドリームワークスで過ごしその後、居宅介護事業所で過ごして17:30自宅に帰る生活をしている。
4. 強度行動障害と虐待防止

【地域での生活をあきらめない！！】

平成26年秋 ボランティアさんと

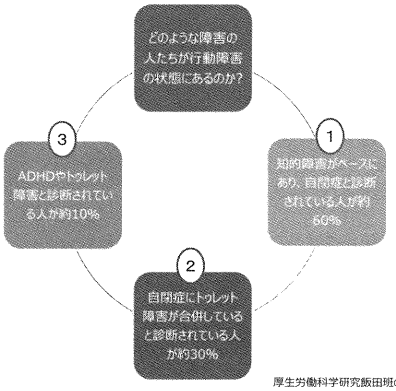
ご清聴ありがとうございました！

2015 信秋　そばの花

実践・事例報告⑤

平成27年9月24日
国立のぞみの園　生活支援部
伊豆山澄男

行動障害を示している人たち



厚生労働科学研究飯田班のまとめ support 2012.1

行動障害を示している人の正体

行動障害を示している人の90%が・・・

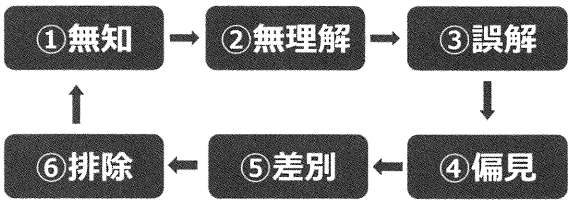
自閉症の人たちであるということになる

行動障害を理解するキーワード

キーワード①｜自閉症の理解

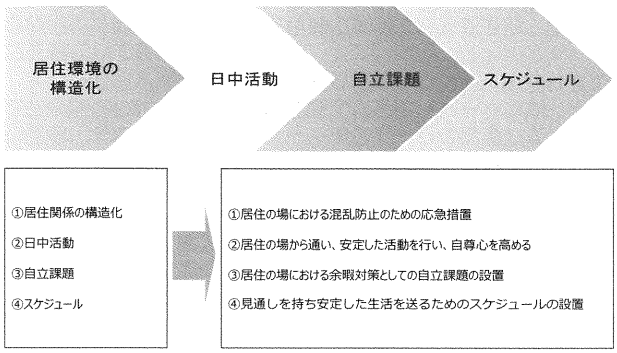
キーワード②｜構造化の理解

負の連鎖を解く鍵



心のバリアフリー（藤村）：2005

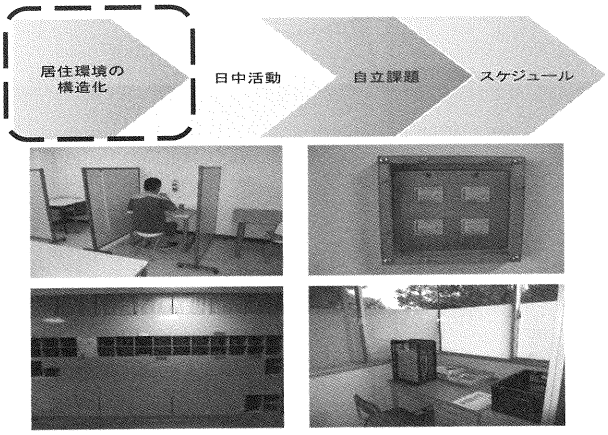
行動障害への支援｜シンプルな４つの基本戦略



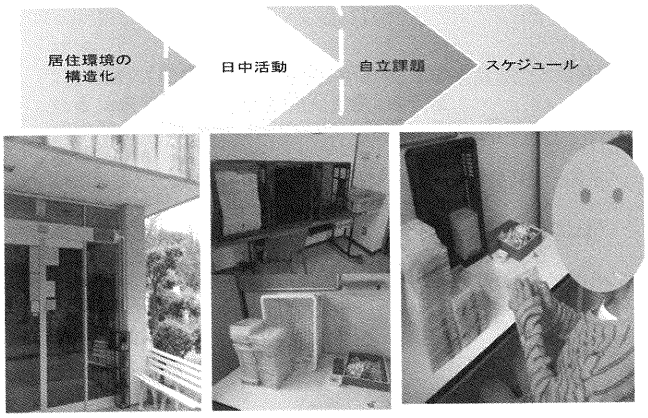
事例（Iさん）｜IQは測定不能、男性、自閉症

① 児童施設の時代（昭和37年３月～平成８年９月）＝９歳～43歳
1歳７ヶ月でクレヨン、紙を異食する。砂場では砂を異食する。その後も煙草の吸殻、毛髪、ベニヤ板、紙製品、靴板のゴム、排出便、毛糸のセーター、固形石鹸、洗剤、シャンプー、木の実等激しい異食があるため、 行動に制限が加えられた。
② 国立のぞみの園 R寮時代（平成８年９月～平成17年10月）＝43歳～52歳
激しい異食（便、たばこの吸殻、石鹸、コーヒーの粉、ビニールテープ、段ボール、トイレットペーパー）のため生活全般に制限が加えられていたが、監視されるストレスから意識的な尿失禁を繰り返すようになった。支援会議により、①過干渉をやめ見守ること、②当番として役割を習慣化に試みること（コップ配り、洗濯物たたみ）、③夜間に他人の居室で寝ている時は見守ること、④支援方法について職員の意識統一を図ることとした。ストレスの軽減や役割当番の理解、本人が心地よく思える環境を整えたが排泄物の異食は軽減しなかった。
③ 国立のぞみの園 A寮時代（平成17年10月～平成21年12月）＝52～56歳
構造化による支援の導入（シンプルな４つの基本戦略）
④ 国立のぞみの園 K寮時代（平成21年12月～現在）＝56～63歳
継続した構造化による支援の実施→排泄物の異食が軽減、消失（消失して３年以上が経過）

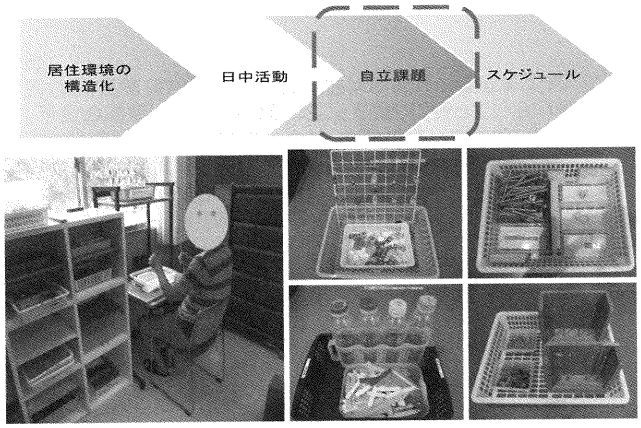
４つの基本戦略｜その①　居住環境の構造化



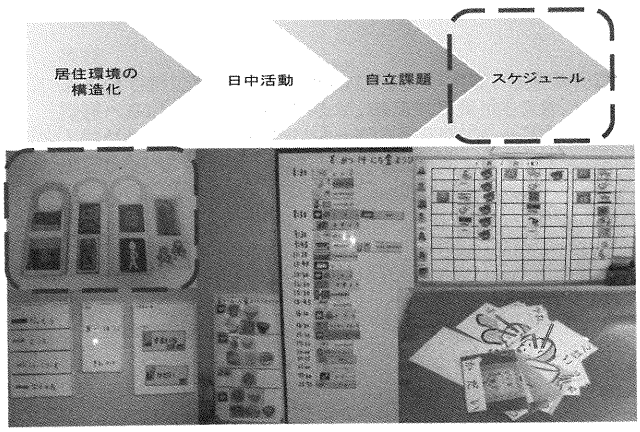
４つの基本戦略｜その②　日中活動



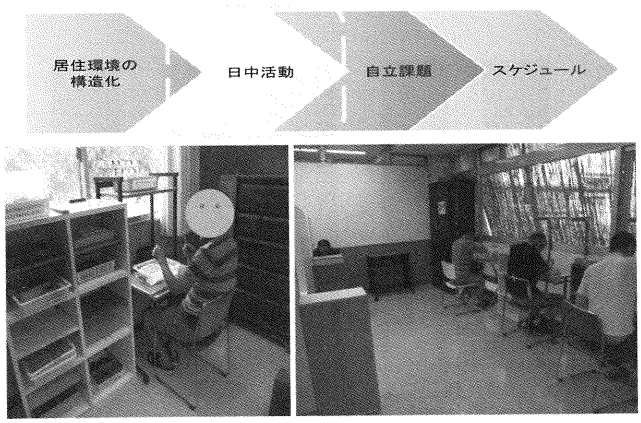
４つの基本戦略｜その③　自立課題



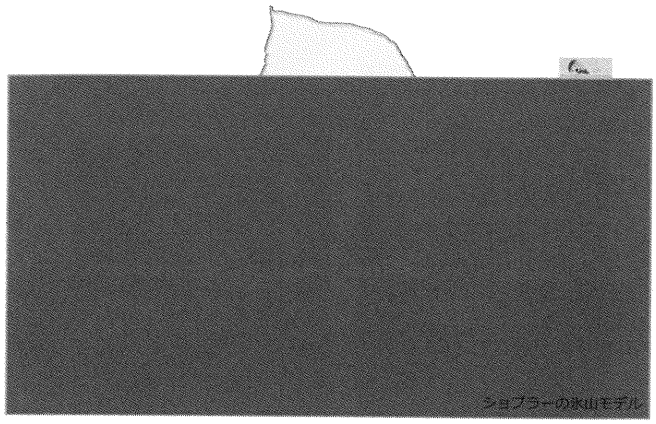
４つの基本戦略｜その④　スケジュール



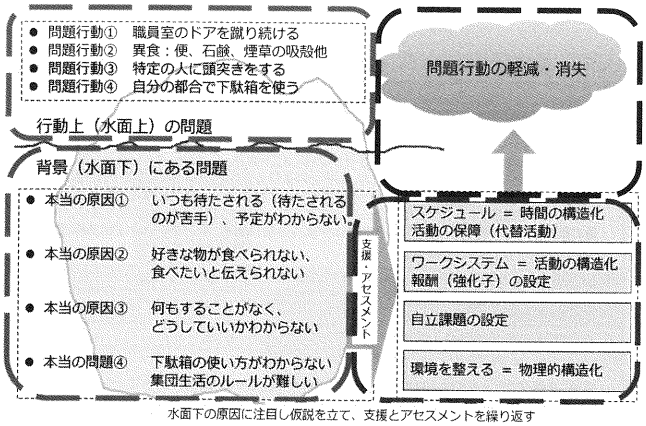
その他の取組み｜代替活動の提供



氷山モデルの紹介



（Ｉさんの問題行動軽減にあたって）



水面下の原因に注目し仮説を立て、支援とアセスメントを繰り返す

平成27年度強度行動障害支援者養成研修
フォローアップ研修
27. 9. 25

事例報告
強度行動障害のある方の重度訪問介護利用
～関係者の連携とアセスメントの共有～

社会福祉法人　横浜やまびこの里
ヘルパーセンターやまびこ
神田　宏　（管理者）

本人(1)

名前：ヒロノブさん（仮名）
年齢：36歳
性別：男性
区分：6
利用サービス：生活介護（日中）・共同生活援助・行動援護・重度訪問介護

身長：182センチ
体重：100キロ

大きな目で人をじっと見つめるちょっと少年のような雰囲気のある男性

2

本人(2)

経過：
2歳の時に「知的障害」との指摘があり、その後自閉症と診断される。2歳年下の弟も知的障害を伴う自閉症。
幼少期から兄弟とも絵画や工作に特異な才能。弟は比較的言語理解が良い。
いつも弟と比較され「甘え上手な弟」「怒りっぽい兄」ととらえられる。
両親とも芸術的な才能を伸ばすためか情緒的に接することが多く、特に母は口うるさくしつけを行う。
34歳の時に母が他界、グループホーム利用へ（弟は数年前からグループホーム利用）
週末は弟と父とで過ごすことが多い

3

本人(3)

行動：
言語（話し言葉）の理解は「？」、発語は明瞭だがほぼエコラリア。予定の理解は過去に経験したことを頼りに行っている印象。予定で納得できないことがあったり、女性の高い声を聞いたりすると「女の子になるのー」、「雪が降るのー」と場面にそぐわない言葉を大声で叫び、最終的には地面に寝そべって服を破ってしまう。

「ヒロノブは何でも分かっているから、（言葉で伝えて）大丈夫」
父

腫れ物に触るように接する。原則男性2名対応。
日中生活介護

4

本人(3)

課題：
週末帰宅時に弟とそりが合わなくて、父が大変。毎週末行動援護ヘルパーと出かけているが、経済的な負担も大きい。本人はグループホームを気に入っているのでグループホームで過ごせないか？ちょっとした外出は継続したい。

「ヒロノブさんに対応できるスタッフを週末は配置できない」
GH

そうだ！グループホームに重度訪問介護ヘルパーを派遣しよう！
行動援護事業所

5

重度訪問介護利用
～関係者の連携～

サービス担当者会議等における連携 → サービス等利用計画の作成 → 行動援護事業所によるアセスメント（居宅内） → サービス等利用計画の変更 → 重度訪問介護利用開始

6

重度訪問介護利用
～関係者の連携～

サービス担当者会議等における連携

参加者：
父・計画相談事業所・日中生活介護事業所・グループホーム・ヘルパー事業所（行動援護、重度訪問介護）

平日夜に集まり全部で10数回

本人の障害像の共有

話し言葉は苦手

文字は得意

予定は意外と分かっていない

7

重度訪問介護利用
～関係者の連携～

サービス等利用計画の作成

行動援護事業所による居宅内アセスメントのための行動援護上乗せ支給

96時間／月から112時間／月へ16時間上乗せ
根拠は8時間×2日／月の居宅内アセスメント

8

重度訪問介護利用
～関係者の連携～

行動援護事業所によるアセスメント

サービス提供責任者による8時間×2日／月のアセスメントを4ヶ月実施。

自閉症・発達障害特性シート（資料1）
支援手順書　　（資料2）

を共有

9

重度訪問介護利用
～アセスメントの共有～

サービス等利用計画の作成

重度訪問介護利用（16時間／月）を盛り込んだサービス等利用計画（資料3、4）

重度訪問介護支給決定

10

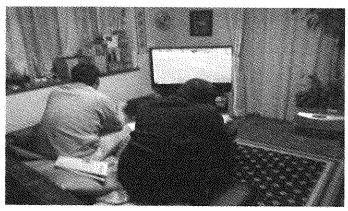
重度訪問介護利用
～アセスメントの共有～

重度訪問介護の利用
ヘルパーさんが手順書にしたがってサービス開始。定期的なモニタリングを実施。利用報告の会議を不定期に継続して実施。

「家でも文字のスケジュールを使ったら落ち着き始めた」
父

「作業所でも個室を用意して課題を文字で示すようにしたよ」
日中生活介護

11



12

自閉症・発達障害特性シート

日付：2015／／	氏名：[redacted]さん　（[redacted]歳）	記入者：
特　　性	本人の行動や特性	指導・支援の概要
コミュニケーションの特性・社会性 **受容コミュニケーションの特性** 言語指示の理解の困難さ、字義どおり理解する、言語指示を整理してつかむことができないなど	言語指示は苦手。指示内容よりも言語（音声）刺激が苦手である。発語が自分に向けられていな時でも刺激に反応して独語→混乱する場合がある。	音声による指示は原則行わない。本人の前では支援者も会話を控える。
表出コミュニケーションの特性 無言語、エコラリア、声の調子やリズム、意思交換の困難さなど	特定の場面において言語（発語）による表出があるが、過度の緊張を伴う。基本的は行動が要求に先行する。	適切な場面で適切な要求をすること、要求を満たすことによって、自発的なコミュニケーションの成功体験を積む。
社会性・対人関係の特性 一人でいることを好む、アイコンタクトやジョイントアテンション、セオリ・オフ・マインドの困難さ、自発的にかかわりをもつことの困難さなど	一人でいることを好む。支援者については意識をしていて、指示を待っている様子も見受けられる。人の接近に関しては緊張を伴う様子が見られる。	音声によらない指示を適切にする場面を増やし、その後支援者はフェードアウトし自発性を確保する。指示待ちにならないような配慮が必要。
全体よりも細部に注目する特性 **転導性・衝動性 注意・注目の特性** 転導的・衝動的な行動、切り替えの困難さ注目することの困難さなど	音声刺激（女性の高音）に対する耐性は低く。衝動的に脱衣に至る可能性がある。自ら収束することは困難。直接刺激がない場合は過去の混乱の場面で同一行動にでることはないが、同じ人に対しては緊張感が継続する。	刺激のコントロールが必要。活動に集中しているときは刺激に対する耐性が増す。混乱時は速やかな場面の変更とぬれタオル等による体温調整を行う。苦手な人は避ける配慮をする。（苦手に思われないような対応）。
時間整理統合の特性 日程の計画や調整、活動や手順の調整、実行機能の困難さなど	時間は理解している。	日課がルーティン化した場合は簡潔な言語指示で動ける為、スケジュールは使用しない。ワンデイのスケジュールを文面提示することで気になってしまい、職員とやり取りになっていまうため、次の活動のみ提示する。
空間整理統合の特性 自分の位置や材料や道具の位置の調整、ひとつの場所の多目的利用の困難さなど	物の位置等に関する執着はない。むしろやや煩雑である。	整理整頓に関して物の位置を構造化し、手順書等を利用し自分でできるように支援する。
変化の対応の特性 場所、物、人、予定、習慣の変化の不安・抵抗、強迫的な行動、ルーティンの必要性など	言語指示による変更は苦手。日課については固執する様子はないがルーチンとしてこなす能力は高い。	導入時には文字によるスケジュールを使用。ルーチン化したものは継続するが、変化については事前に文字で伝えることが必要なので、継続的に簡易な文字スケジュールを使用すること。
関係の理解の困難さ 関連づけしすぎ、関連づけが難しい、自己流の解釈、字義どおりの解釈、絵などの具体的に意味をとるなど	自発的に聞くことができなために、活動は自己流になりがち。言語に関しては音声刺激に反応するため適切な意味理解は困難。	手順書等で活動を正しく教える必要がある。ルーチン化した後も定期的にメンテナンスをしないと自己流になるので注意。行動の修正は否定ではなく、正しい行動を促すように指示する。
般化の特性 習得したスキルや人や物への対応を、他の場面、違う文脈で状態が変わる。材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できないなど	刺激の少ない環境においては般化させることができる。	刺激をコントロールした環境を提供する。
記憶の特性 **記憶の維持の特性** 短期記憶・作業記憶などの維持の困難さなど	刺激のない環境下では短期記憶の保持は良好。	刺激の少ない環境を提供する。
長期記憶の特性 長期に脳に維持される記憶、経験した記憶が消せない特性など	否定的、失敗体験等が強く保持される傾向が強い。	成功体験を積ませることで、苦手な記憶を相対的に軽減する。
感覚の特異性 視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、または鈍感さ、鋭感さ	音声刺激に関する耐性は著しく低い。接触に関する緊張もあるが言語指示されることによる失敗の記憶と結びついているような緊張。高温多湿は苦手で発汗はあるが不快なようで脱衣につながる。	高音、多湿に注意し、音声刺激をコントロールするよう配慮する。
微細運動・粗大運動 手と目の供応の困難さ、手先の不器用さ、緊張のある動き、柔軟さのない体全体の動きなど	手先の器用ははある。粗大な運度もできるが、集団活動が苦手なため、過去の苦手な記憶を喚起する可能性がある。	個別なデスクワークが向いている。アクティビティシステムを用いて家事活動等を行う。
その他の特性 感情のコントロール、　等	混乱時には自分からは落ち着けない。	混乱時は場面を速やかに変更すること。刺激物を物理的に排除する。
理解に関する特性 （何を見て理解するか）	人を模倣する。場面から類推して行動しようとするが不安と緊張を伴う様子が見られる。	文字等を使用した手順書等で成功体験を積ませ、自信をもって行動できるよう支援する。

支援手順書　記録用紙

日付：	氏名：[redacted]さん	記入者：
サービス提供時間：	サービス種類：	

時間	活動	手順	様子
9:00～10:00	布団干し、掃除(ハンドワイパー・掃除機・ゴミ捨て)	●予告(○時○分に掃除します) ●用具準備（ハンドワイパー/掃除機) ●清掃内容の提示(指示書) ●完了声かけ・予告(終わりです/お部屋戻ります/11時お出かけです)	
10:00～11:00	居室内 で過ごす	●見守り	
11:00～13:45	外出(行動援護)	●ポーチ準備(手帳、乗車券、お金) ●出発タイマー提示(出発カード) ●外出コース提示(声かけ/ルート表) ●外出用かばんを持って出発 ●昼食外食	行動援護報告書に記載
13:45～14:00	手洗いうがい、歯みがき	●うがいコップ準備 ●歯みがき指示(声かけ/仕上げ) ●予告(お部屋戻ります)	
14::00～16:00	居室内 で過ごす	●見守り	
16:00～17:00	布団取り込み、洗濯物取り込み、たたみ、仕舞い、おやつ	●活動内容提示(指示書) ●見守り	

【連絡事項】

【問い合わせ事項】

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案

受給者証番号		利用者氏名(児童氏名)		保護者(児童)または後見人	
通所受給者証番号		相談支援事業者名	東やまたレジデンス(計画相談)	計画作成担当者	[redacted]
計画案作成日	H27/ 9/11	モニタリング期間(開始年月)	H28/3,9	利用者同意署名欄	

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)		グループホームに入居してから、徐々にペースをつかみ現状になじんできた所だと思う。 各支援を利用して落ち着いてきているが、まだ心配な点があるので経過を見守りたい。 将来的には、自立して生涯(1年を通して)過ごせる様になってほしい。 週末帰宅時のプールは、コミュニケーションを取る大切な時間である。
総合的な援助の方針		関係機関で障害特性や支援方法などの共有を図り、切れ目のない支援の提供により、生活全般の安定を目指す
	長期目標	必要な手掛かりを活用し、状態の安定を維持する事で、取り組める活動の幅が広がるように支援する
	短期目標	予定や日課等の見通しを持ち、安定して過ごせるように必要な支援を提供する

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等	課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	新たな活動等に取り組む機会をもち、活動の幅を広げたい	新たな活動の提供等を通じて、活動の幅が広がるように支援する	12ヶ月	生活介護事業所の利用基本 23.0日	様々なプログラムに落ち着いて参加する	1ヶ月	
2	刺激などの少ない環境で、見通しを持って課題に取り組みたい	得意な部分や可能性を生かして、提供できる活動を増やす	12ヶ月	生活介護事業所の利用基本23.0日	作業に取り組み、環境設定や提示などを頼りに見通しを持って過ごす	1ヶ月	
3	混乱の軽減や睡眠リズムを改善したい	指示書など視覚的な提示を活用して、言葉でのやり取りを減らし対応の統一を図る	12ヶ月	共同生活援助事業所の利用居宅介護利用者31.0日	提示されたスケジュールや指示書を利用して、言葉のやり取りを減らす	1ヶ月	
4	入浴や身だしなみを整え、衛生的に暮らしたい	必要な介助を行い、衛生を保てるように支援する	12ヶ月	居宅介護事業所の利用身体介護62.0時間 3.0/回	必要な介助や支援について伝える	1ヶ月	
5	外出を楽しみたい	本人が楽しめるような外出活動を提案し、安全に外出できるように必要な介助を行う	12ヶ月	行動援護事業所の利用行動援護基本96.0(うち96.0)時間/2人対応	希望の日程や活動内容を伝え、落ち着いて活動を実施する	1ヶ月	
6	切れ目なく包括的な対応をお願いしたい	居宅(グループホーム)内で安定して過ごせるように、包括的な支援を提供する	12ヶ月	重度訪問介護事業所の利用16.0時間 ※外出時:行動援護	重度訪問介護のサービスを受け、安定した日課を過ごす	1ヶ月	月2回(8.0時間/回:内3.0時間程度外出)の利用予定 悪天候時には、居宅内で過ごす日課(食事の配下膳、調理補助等)へ変更する可能性あり

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案【週間計画表】

受給者証番号		利用者氏名(児童氏名)		保護者(児童)または後見人	
通所受給者証番号		相談支援事業者名	東やまたレジデンス(計画相談)	計画作成担当者	[redacted]
計画開始年月	H27/10				

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00	グループホーム	グループホーム	グループホーム	グループホーム	グループホーム	グループホーム	自宅 ※帰宅のない週は、グループホーム利用	・日中活動として、主にA事業所では、ミュージックや創作活動プログラムに取り組んでいる。B事業所では、ビーズの自主製品作成を行っている ・グループホームでは、余暇としてテレビ・ゲーム・雑誌を見るなどしている事が多い ・土曜帰宅時は、父が迎えに来て、○○○○のプールへ泳ぎに行っている ・自宅では、夕方に数時間程単独で外出している
8:00	起床・朝食・整容・歯磨	起床・朝食・整容・歯磨	起床・朝食・整容・歯磨	起床・朝食・整容・歯磨	起床・朝食・整容・歯磨	起床・朝食・整容・歯磨		
10:00	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動	自宅	※グループホーム利用時9:00～17:00/月2回重度訪問介護利用(内3.0時間外出)外出しない場合には、居宅内(食事の配下膳,調理補助等)にて過ごす	
12:00								
14:00								
16:00	グループホーム	グループホーム	徒歩でグループホーム グループホーム	グループホーム	グループホーム		グループホーム	週単位以外のサービス
18:00	食事、入浴、整容・就寝	食事、入浴、整容・就寝	食事、入浴、整容・就寝	食事、入浴、整容・就寝	食事、入浴、整容・就寝		食事、入浴、整容・就寝	・後見的支援制度を利用し、定期的な訪問を受けている ・月1回は週末帰宅せず、グループホームで過ごしている ・月2回休日のグループホーム利用時に重度訪問介護を利用(8.0時間/回、内外出3.0時間)
20:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝		就寝	
22:00								
0:00								
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	・視覚的な手掛かりの活用・環境設定・対応の整理などで、活動内容が明確になり安心して過ごす事が出来る ・本人に適した支援を1日を通して提供することで、不調が軽減され生活全般の安定につながる ・新たな活動等の提供により、取り組める活動が増え、活動の幅が広がる

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌等

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
志賀利一	「強度行動障害支援者養成研修」	さぽーと	第62巻第６号	43	2015
村岡美幸	７月に「平成27年度強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）」を開催しました。	国立のぞみの園ニュースレター	第46号	16-17	2015
信原和典	強度行動障害支援者養成研修の取り組みについて	国立のぞみの園ニュースレター	第46号	26	2015
信原和典	平成27年度強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修の開催について　－ 出会える・学べる実践事例研究会 －	国立のぞみの園ニュースレター	第47号	16-17	2016

学会発表・講演等

発表者氏名	発表題目	学会名	形式	場所	発表年
信原和典	強度行動障害支援者養成研修の取り組みについて	自閉症カンファレンス NIPPON 2015	ポスター	早稲田大学	2015

研究者一覧

主任研究者

遠藤　浩　　（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　理事長）

分担研究者

五味　洋一　（筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
アクセシビリティ部門（障害学生支援室）　准教授　）

大原　裕介　（社会福祉法人ゆうゆう　理事長／北海道医療大学　客員教授）

研究協力者

片桐　公彦　（社会福祉法人みんなでいきる　副理事長）

志賀　利一　（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　研究係）

相馬　大祐　（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　研究係）

信原　和典　（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　研究係）

福島 龍三郎　（NPO 法人ライフサポートはる　理事長）

村岡　美幸　（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　研究係）

（姓：50 音順／所属：2016 年 3 月末現在）

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業（障害者対策総合研究事業）

強度行動障害支援者養成研修の評価
及び改善に関する研究

平成 27 年度 総括・分担研究報告書

2016 年 3 月

研究代表者　　遠藤　浩

編集・発行　独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
〒370-0865　群馬県高崎市寺尾町 2120 番地 2
TEL　027-325-1501　　FAX　027-327-7628
URL　http://www.nozomi.go.jp
印　刷　所　上武印刷株式会社